

# コミュニケーションの分析と応用研究会

日時: 2013年3月22日(金) 13時~18時30分

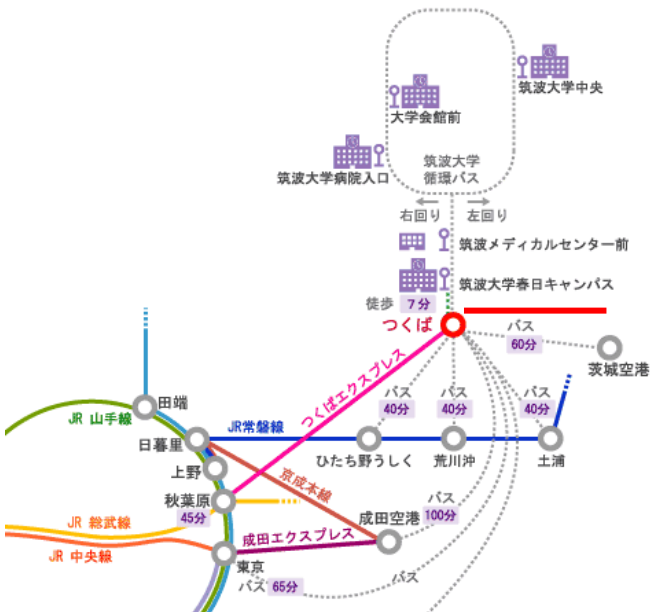
場所: 筑波大学 春日エリア

情報メディアユニオン 1F 講義室(講演会場)

春日食堂(ポスター発表会場)

主催: コミュニケーションの分析と応用研究会実行委員会

キャンパスマップ 春日地区



【お問い合わせ】

井上智雄 TEL 029-859-1304 (直通)

## プログラム(敬称略)

- 13:00 開会挨拶 筑波大学 井上智雄
- 講演** <情報メディアユニオン 1F講義室>
- 13:05 感情認識の「正解」問題と場の空気形成 NTT CS研 大和淳司
- 13:35 食事映像の同調がコミュニケーションや存在感に与える影響 筑波大学 井上智雄
- 14:05 -----休憩(5分)-----
- 14:10 【招待講演】  
認知工学研究からみた対話研究 ― 問題解決のための対話を分析する, 評価する  
筑波大学 原田悦子
- 15:00 -----休憩(10分)-----
- 15:10 PBL (problem-based learning) を支援する授業環境の開発と検証  
東京電機大学 木村 敦
- 15:40 コミュニケーションにおける視聴覚的表象と言語の対応構造分析と応用に向けて  
東京電機大学 武川直樹
- 16:10 ポスター会場案内
- ポスター発表・懇親会・ディスカッション** <春日食堂>
- 懇親会開始 挨拶 乾杯**
- 16:30 前半-----
- A1 擬人化エージェントによる食事行動のタイミングが食事に及ぼす影響  
筑波大学 塩原拓人
- A2 中国人と日本人の共食コミュニケーションの比較 筑波大学 任 海因
- A3 顔を表示したディスプレイの乗り出動作が遠隔対話に与える影響 筑波大学 浜田 崇
- A4 家電製品のユーザビリティテスト用ツールの開発と評価 筑波大学 今村隆雄
- A5 仲の良さを示す抽象表現のデザイン 東京電機大学 森見久美子
- A6 エージェントの存在が SNS 上の否定的発言抑制に及ぼす効果の検証  
東京電機大学 大沼美由紀
- A7 会話コミュニケーションにおける沈黙とフィラーの分析と応用 東京電機大学 佐々木寛紀
- A8 センサネットワークを用いた二世帯居間共有コミュニケーション支援システム  
東京電機大学 好野翔平
- A9 抽象キャラクタ表現を用いた二世帯居間共有システムの提案  
～世代間コミュニケーション支援のために～ 東京電機大学 渡部由梨
- A10 カラーバリエーションが被服選択行動に及ぼす影響についての実験的検討  
東京電機大学 佐藤典子
- 17:30 後半-----
- B1 食事の見え方が異なる遠隔および対面共食におけるコミュニケーションの違い  
筑波大学 古川大智
- B2 二者間対面対話における食事の偏在によるコミュニケーションの差異 筑波大学 檜垣雄也
- B3 会食状況認識による会話支援システム Group FDT 筑波大学 劉蕊
- B4 ペアプログラミングにおける発話や操作とプログラムの成否の関係 筑波大学 胡 君珊
- B5 発話, 視線, 傾き行動の参与者間のタイミングと心的状態・意図の関係の分析  
東京電機大学 徳永弘子
- B6 人の会話中における「話したい／聞きたい」表情認識 東京電機大学 渡辺雄一
- B7 発話速度変換音声から受ける感情印象を補正する基本周波数制御手法  
～ゆっくりにした声の印象を向上させるために～ 東京電機大学 池原仙一
- B8 発話速度の変化が共感的理解に 与える影響に関する研究 東京電機大学 橋本恵理子
- B9 韻律制御を適用した話速変換手法の実装 東京電機大学 小野貴大
- B10 (研究速報) 話速変換による時間伸長が 3 人会話の発話交替に及ぼす影響  
東京電機大学 瀬戸洋紀 ○斎藤博人
- 18:30 終了

## 講演概要

### 認知工学研究からみた対話研究 — 問題解決のための対話を分析する, 評価する

筑波大学 原田悦子

コミュニケーションは協同で行われる問題解決において必須の要素であり, そのため認知心理学・認知工学の視点からは, 問題解決過程を知る, あるいはその過程・結果を評価するための測度として貴重な分析資源でもある. 特に対話支援システムなどメディア利用時の対話には多くの情報が詰まっていると考えられ, そうした対話データをどのように分析・利用していくことが可能なのか, いくつかの研究事例を紹介しつつ, ご議論いただきたい.

### 感情認識の「正解」問題と場の空気形成

NTT CS研 大和淳司

情動面を含めたインタラクションの基本要素である二者間の共感/反感状態の分布推定という課題に対して新たなアプローチでの定式化を行った. これは, 共感/反感状態という当事者の内心に関わる状態についての客観的な推定を可能にする解釈モデルである. ポイントは2つあり, 本人の内心=正解という捉え方ではなく, 他人からどのように見えるか, を扱うこと, それに付随して, 1つの正解があるのではなく, 多人数が見た時にどのように見る人が多いのか, その分布こそが重要である, との考え方である. この考え方にもとづき, 時間差による共感解釈の特性を明らかにし, 解釈分布の自動推定を行う手法を開発した.

### 食事映像の同調がコミュニケーションや存在感に与える影響

筑波大学 井上智雄

懇親会の主たる目的は会話であるにも関わらず, 通常そこでは飲食物が提供される. 我々は, このようなコミュニケーションにおける共食の効果に着目したコミュニケーション支援の研究を進めている. 本講演では, 遠隔地にいたり生活時間が違ったりして本来共食ができない相手の食事の様子を映像で見せる形での共食を対象として, 食事を同調させた場合の効果について紹介する. また, そのコミュニケーション支援への応用について考えたい.

### PBL (problem-based learning) を支援する授業環境の開発と検証

東京電機大学 木村 敦

学生主体の問題解決型学習である PBL (problem-based learning) において, 小集団学習は主要な学習形態である. 自己学習に加えて少人数でのグループディスカッションを繰り返すことで主体性, 協調性や問題俯瞰力, 表現力の育成が可能となる. 一方で, 学生の中には小集団学習や友人以外のメンバーとのコミュニケーションに不慣れな者も少なくなく, 学生同士の小集団学習の場をいかに設計するかは PBL の学習効果を高める上で重要な要因といえる. 本発表では発表者が実践している PBL 科目での小集団学習支援のインフラ開発・導入とその効果検証について紹介する. さらにそれら導入・検証サイクルにより, 小集団学習の成果の質を高めるには班学習プロセスの可視化が必要である可能性が見出されたため, 小集団学習プロセスを可視化する Logbook を開発した. これについても予備的検討の成果を報告する.

### コミュニケーションにおける視聴覚的表象と言語の対応構造分析と応用に向けて

東京電機大学 武川直樹

人に安心, 安らぎ, 楽しさを与えながら生活の支援ができるコミュニケーションロボットの研究が精力的に進められている. コミュニケーションロボットは人との相互の共感的な振る舞いを通じて人に受け入れられることが必要なため, 人の気持ちや意図を表情・仕草から認識し, また人に適切な表情・仕草を表現する技術が必要である. 本研究は, 工学と認知・社会心理学を融合したアプローチによりこのようなロボットの実現を狙う. そのための第一歩として会話映像コーパスを用いて会話の形成において重要な会話参加者の参与役割および視線, 表情, 発話と発話交替の現象に着目し会話コミュニケーションを分析している. ここでは, その分析状況について報告する.

## 実行委員会

武川直樹<sup>1</sup>, 井上智雄<sup>2</sup>, 湯浅将英<sup>1</sup>, 木村敦<sup>1</sup>, 徳永弘子<sup>1</sup>  
(<sup>1</sup>東京電機大学, <sup>2</sup>筑波大学)